

◀ 今まで通りのやり方で解決できるのであれば、うちの会社に声が掛かることはありません。少なからず今の仕事が出来ようになつた理由は本業以外の分野を含め、役に立ちそうなこと、立たなさそうなことを問わず、つねに様々な情報をインプットしているからではないかと思っています。実は私自身にはオリエナリティーというものは、さほど持ち合わせていないと思っています。ただ、少しだけ異なるものを組み合わせることで、新しい価値を創造する才能はあるのかもしれない。

お客様は西本さんのどこに価値を感じて仕事を依頼されているのだと思いますか？

その仕事に関わる全ての人の、役割、利益、リスク、仕事のしやすさなど、全て説明した上で企画をするからだと思います。具体的なものを



作る仕事とは異なり、どちらかと言うと「仕組み」を作ることと生業としているため、その企画が本当に実現するかという「リアリティ」は非常に大切です。良い面だけではなく、悪い面、リスク、関わる人がどう考えるか、どこに落とし穴があり、どのような将来性や展望があるかまで、考える限り全ての説明をします。そして、企画するだけでなく、クライアントと一緒に現場の第一線に立って作業を行うからではないでしょうか。

仕事を通して幸せにしたい人は誰ですか？

それは勿論、依頼主(クライアント)、関係者、スタッフですね！それと自分自身が幸せに感じる時で言えば、誰もやっていない「新しい」ものを作り出した時です。サービスでも、デザインでも、少々の工夫で、それまで問題であったことがクリアになる解決策を提供できた時が、この仕事をしていて「良かった」と思う瞬間です。伝統産業でもそれ以外の仕事でも、もうこれ以上新しいものは出ないだろうと思っても、日々なんらかの進歩があると思っているんです。自分のアイデアや考えが新たな進歩につながった時、今の仕事をやって良かった。自分の選んだ道は間違っていなかったと思う瞬間ですね。

それはどうしてそう思うのですか？

仕事の喜びは、僕がという一人称ではなく、私たちがという三人称、私はそう強く思っているからです。一人で喜ぶよりも出来るだけ多くの方と喜びを分かち合いたい。自分自身の達成感だけで仕事を数年は出来たとしても、それだけで10年、20年と長い間仕事を続けていくモチベーションを維持することは難しいと思います。

す。それに何より依頼主や、共に仕事をしてくれるスタッフに支持されないと仕事自体が成り立たないからです。



西本さんのオフィスの写真。海外の建築関係の写真集がずらりと並んでいます。

個人ブランド力を上げる上で何か気をつけていることはありますか？

「相手が理解しやすい」ことを心がけるようにしています。自分を偽るのではなく、相手が望んでいる内容をキチンと理解した上でコミュニケーションに応じて、話し方、説明、スタイルなどを、相手方が理解しやすく、もつとも腑に落ちる使い分けています。相手と自分の距離感を考えるようになってきましたね。自分のアピールをしなきゃと思っていた時期もありますが今は人の話をよく聞くようになりました。「自分が出来ること」「相手が出来ること」「自分の考え」「相手の考え」を少なからず理解して付き合っていくことで、20代や30代の頃とは少し違った、人との繋がり方が出来てきたように思います。

直接関係のある、建築や不動産だけでなく、デザイン、音楽、映画やファッション。税金や法律、様々な分野の情報に触れて、問題を解決していくヒントを探る。普段そう意識してしていることが結局は自分ブランドを確立しているのではないかと、そう思います。

会社名「タグボート」に込めた思いを教えてください！

タグボートとは、港に出入りをする大きな客船やタンカーを曳航する小さな船の名前です。どんなに大きな船も、タグボートがいなければ接岸することができません。



平成7年に私が大学を卒業し、入社をした会社は社員が1万5000人。同期が1,000人という会社でした。かたやタグボートを作る前に勤めていた会社は社員3名。大きな会社だからこそ出来るダイナミックな仕事も、小さな会社だからこそ小回りが利かなかつたり、小さな会社であるが所以に出来る仕事の大きさに限界があったりと、それぞれの良い面、悪い面を経験してきました。組織は小さくても、大きな仕事が出来てみたい。

大企業がその大きな組織であるが故に出来ないことは沢山あります。そんな問題を、小さくてもノウハウと機動力で解決していく存在になりたい。タグボートという小さな船が、自分の何倍も大きな船を時には引っ張り、時には力強く押し、あるべき場所に導いていく。それが、私がタグボートという社名に込めた思いです。

仕事を通してどう在りたいですか？

いい意味での社会の歯車で在れたらと考えています。自己満足ではなく、小さくとも社会が良くなり社会が動いていくために何か役に立つそんな仕事が出来るとなりたいと考えています。